



## オルタナティブ 文明論

田坂広志

### 世界の「新たな価値観」は 日本の「懐かしい価値観」

今回は、資本主義の経済原理に起こっている第五のパラダイム転換、「無限成長経済」から「地球環境経済」(有限成長経済)への転換について述べた。

では、この「経済パラダイムの転換」に伴って、我々には、どのような「価値観の転換」が求められるのか。

それは、言うまでもなく「無限」から「有限」への価値観の転換。すなわち、「無限の空間」「無限の資源」「無限の成長」を前提とした価値観ではなく、「有限の空間」「有限の資源」「有限の成長」を前提とした価値観への転換である。

では、それは、我々日本人にとって「新たな価値観」か。

そうではない。

なぜなら、この日本という国は、昔から「島国という狭い国土」「限られた乏しい資源」を前提に、精神や思想、文化や文明を育んできたからである。

例えば、我々日本人は、「狭い国土」を有効に使うために「縮み」の文化を育ててきた。

また、「乏しい資源」を節約するために「無駄ない」や「有り難い」の精神を育んできた。

さらには、「限られた経済成長」を前提に「知足の精神」や「清貧の思想」を生み出してきた。

そして、こうした精神や思想、文化や文明のもとに、江戸時代、江戸という都市は、当時のロンドンやパリに、まともな下水処理システムさえ無かった時代に、比類なき高度な「環境都市」を実現していた。

すなわち、この日本という国は、当時の世界の水準から見れば、極めて優れた節水技術、資源リサイクル技術、廃棄物処理技術、自然保護技術などを生み出していたのである。

それゆえ、「無限成長経済」から「地球環境経済」へのパラダイム転換が我々に求める「新たな価値観」とは、実は、日本人にとっては、「懐かしい価値観」に他ならない。

いや、それは、単に「経済パラダイムの転換」に伴う「価値観の転換」だけではない。

地球環境問題、世界経済危機、国際的な政治の不安定、貧富の差の拡大、民族紛争の頻発、テロリズムの広がりなど、いま、「グローバルな諸問題」が深刻化するなかで、我々人類に求められている「新たな価値観への転換」そのものが、不思議なことに、日本人にとっては、「懐かしい価値観への回帰」なのである。

では、それは、何か。

次の「五つの価値観の転換」である。

第一は、「無限」から「有限」へ

第二は、「不変」から「無常」へ

第三は、「征服」から「自然」へ

第四は、「対立」から「包摂」へ

第五は、「効率」から「意味」へ

次回、この「五つの価値観の転換」について、語ろう。

たさか・ひろし 81年東京大学大学院修了。工学博士。87年、米国パテル記念研究所客員研究員。90年日本総合研究所の設立に参画。取締役・開発戦略センター所長等を歴任。00年多摩大学大学院教授に就任。同年シンクタンク・ソフィアバンクを設立。03年社会起業家フォーラムを設立。08年世界経済フォーラム(ダボス会議)のGlobal Agenda Councilのメンバーに就任。著書に「目に見えない資本主義」「未来を予見する5つの法則」など60冊余。



Illustration : Hattaro Shinano